

註) 「都市計画マスタープラン」⇒「都市マス」と表示しています。

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
金町地区 センター	道路方針図に、現実性のない計画が残されているので整理した方が良い。	道路方針図は、今回の改定で都市計画決定した路線と構想路線に分けて表示をさせていただいた。構想路線は、面的な整備が行なわれる場合や、震災時の復興計画において検討するものとして位置づけたものです。
	水害対策として、高台を作るより高層建物を活用した方が良い。 建物高さの検討について、2階建ての裏に9階建ての建物が建つということが現実起こっている。そういうことのないようにしてほしい。	ハザードマップでは、広域避難を前提としていますが、遠距離避難が困難な方や逃げ遅れた方の対策として、民間の中高層建物へ避難できる仕組みづくりや、人工的な高台の整備など、複合的な対策の検討を進めていくことを示したものです。 建物高さについては、勉強会においても様々な意見を頂いており、メリハリをつけた市街地形成を図るためにも、土地利用の特性に応じた建物高さのあり方について、検討を進めるものです。
水元地区 センター	西水元地域の幹線道路の計画と今後の予定はどうか。	補助 259 号線と補助 261 号線の 2 路線が昭和 41 年に都市計画決定しております。計画されている中川を渡る橋梁を含む都市計画道路は、この 2 路線と南水元の補助 138 号線があり、区では、補助 138 号線の実現に向け、現在、関係機関を含め、検討を進めているところであり、西水元の 2 路線については、第三次事業化計画 (27 年度を中途に着手又は完成すべき路線) に位置づけられておらず、それ以降の計画となります。

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
水元地区 センター	スーパードームや地下空間の活用など、立体的な浸水対策の説明がほしい。	安全まちづくりの方針では、広域避難だけでなく、複合的な避難対策を新たに掲げ、新宿六丁目における人工的な高台づくりなどを位置づけています。地下空間の活用としては、首都圏外郭放水路など、国や都において対策が進められています。
高砂地区 センター	特養ホームの地域偏在を解消するため、高砂団地の建て替えを機会に福祉対策を行政が責任をもって取り組んでほしい。	区としても、同様の認識を持ち、地域別構想に新たに記載しており、都市整備部だけでなく、他の部との連携を図り取り組んでいきたい。
	連続立体事業の早期実現とあるが、区としてどういう手を打ち、具体的にはいつごろになるのか。	地域の方々と連携し、東京都や国に要請活動などを進めるとともに、基金の積み立てを始めている。平成16年に踏切対策基本方針が策定され、20箇所の一つとして位置づけられ、その後、国の事業採択を目指す「事業候補区間」5箇所の一つとして選定され、最終段階にきていますと考えております。
亀有地区 センター	安全まちづくりの方針や震災復興まちづくりの記載が、ハード中心となっているが、地域力をあげることも必要であることから、もう少しソフト面での方針を掲げた方が良いと思う。	都市マスという性格から、ハード面のまちづくりについての記載が多くなっておりますが、区としても、安心・安全なまちづくりの実現には、地域と連携したソフト面での取組が欠かせないと考えており、安全・確実に避難する仕組みづくりなどを掲げさせていただきました。
	環境と共生したまちづくりの方針が大きな項目となっているが、7地域の勉強会では意見が出ていかなかったと思うが、項目に出した意図は何か。	策定委員会での議論を進める中で、今後、低炭素型のまちづくりを進める中では、都市計画の役割は大きいという意見があり、都市計画としてどのように貢献できるかという視点で記述したものです

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
亀有地区 センター	災害の際に重要な場所となる区役所の本庁舎の建て替えは、場所によっては都市マスに影響が出るのではないかと。	都市マスでは、立石駅を含めた区役所周辺に行政施設が集中していることから、歩いて移動できる一定のエリアを広域行政拠点として整理しているものであり、どこにあるべきかを示しているものではありません。区役所の建て替えについては、現在委員会を立ち上げ検討を進めているところですが、区役所が立石にある中で、長い間まちづくりが進められてきた歴史性などにも配慮しながら検討を進めており、現状では影響がないと考えております。
堀切地区 センター	<p>亀有駅北口の駅前には、人が住んでいない家屋などもあり、地域では再開発の議論もある。区はどのように考えているのか。</p> <p>鉄道事業者に対する事業推進の拘束力があるのか、また、河川事業など国が関連する事業とは協調できるのか。</p>	<p>議会でも同じような意見を頂いております。都市マスの改定では、区民が主体性を発揮できるまちづくりの推進と各支援の強化を掲げており、街づくり条例などを活用した形でまちづくり提案が実現できればと考えております。</p> <p>都市マスに位置づけられたことで、鉄道事業者などが拘束されるものではありません。都市マスに方向性などを位置づけることで、国や関係事業者を含め、今後の個別の計画や事業の検討につながっていくものです。</p> <p>首都圏では、30年以内にマグニチュード7クラスの直下型地震が発生する確率が極めて高いといわれており、被災後の中長期的な復興について、事前に考えられる事業手法や目標像を示したものです。10項目のまちづくりが進捗していれば、災害時の被害も低減できると考えておりますが、それでも大きな被害があった場合には、新たな施策を含め検討が必要であると考えております。</p>
	<p>10項目のまちづくりの方針を実現できれば、震災復興まちづくりの方針は必要ないのではないかと。また、被災した場合は、10のまちづくりを進めればよいのではないかと。</p>	

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
掘切地区 センター	駅を利用する自転車対策を都市マースにはどのように示されているのか。	交通体系整備の方針の中に、歩行者・自転車系ネットワークの形成として、歩行者自転車系道路や自転車交通網、駐輪場の整備などを示しており、この方針に基づき、個別の計画や事業について検討を進めていきたい。
東立石地区 センター	このような説明会が決まったら、できる限り早い段階で、情報や資料を区民に知らせるべきではないか。区民と行政がより良い議論を進め、区民と一体となったまちづくりをお願いしたい。	これまでパブリックコメントを行う場合、閲覧場所で資料を見ただき、ご意見を伺っているが、今回は都市マースの概要を含め「広報かつしか」を活用し情報提供するとともに、8箇所で説明会を開催させていただいた。区としても、できる限り多くの方に知っていただき、ご意見を頂くことが重要であると考えており、引き続き、取組を進めていきたい。
	勉強会に、立石の再開発事業は必要ないという立場で参加したが、推進している人もいるので、再開発については両論併記としてまとめるといったことがその記載がない。	再開発については、勉強会の中で「反対」、「進めていこう」という両論の意見があり、勉強会では併記して、策定委員会にかけることで整理したものです。第5回の策定委員会において、勉強会での経過を含め報告させていただいた上で議論をしていただき、現行都市マースに記載してある「再開発」を広義のまちづくりと捉えて使うこととしたものです。
	立石は、一方的に進めているのが問題。地域の現状がどうなっているのかよく見てほしい。街がよくなることを反対しているのではなく、根本的なことから見てほしい。	再開発であれば、一方的に進めることはできない。地権者の賛同が絶対的な条件であり、区としても、地域の方々と一緒に進めていきたい。

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
新小岩北地区センター	葛飾全体の将来像を考えた上で大切なのは、東京都全体で葛飾をどう捉えるか、位置づけるかという視点であり、その意味では検討が不十分であったのではないかと。	都では、2009年に「東京の都市づくりビジョン」を改定し、本区の新宿や高砂などについて、新たに将来像が示されており、また、このビジョンでは、環状メガロポリス構造の構築が掲げられており、本区は、都市環境再生ゾーンに位置しており、潤いのある水と緑に恵まれたまちづくりの方向性が示されており、都市マスタープランの改定では、これらとの整合を図りつつ計画してきます。
スーパードーム防について、ミニチュア版であれば、新小岩公園を活用してできるのではないかと。	今回の改定で、治水対策重点検討区間として、位置づけており、国や都と連携し、実現に向け取り組みたい。	
中川テラスは、高さやたまり場を設けるなどの改善をすれば、活用方法も広がるのではないかと。	中川テラスは、テラスの整備を目的として進められた事業ではなく、耐震補強を進める中で、地元要望を受け、上部をテラス化して活用を図ることとなったものです。そのため、本来の治水対策として必要な高さ等、構造上の制約がある中、できる限り地域の要望を反映し進めているものです。	
新金線の記述についてですが、鉄道は他の交通機関と比べても大量に人を移動させることができるもので、時代の潮流として活用すべきである。	新金線については、現行の都市マスタープランでは触れていなかったのですが、勉強会などでの意見を踏まえ、旅客化やバス専用道や自転車道としての転用、種地としての活用など、周辺環境の動向を踏まえながら、検討を進めることを新たに記述したものです。	

開催場所	主な意見の概要	区への回答概要
ウイメンズパル	<p>立石地域の再開発は、立石に住む住民にとって重大な問題であり多くの時間を割いて議論してきた。しかし、素案には両論併記の合意があつたにも関わらずその記載がなく、ボトムアップとなっていない。</p> <p>立石の区庁舎移転の問題はどうなっているのか。</p> <p>立石の真ん中にハブ空港のような交通広場をつくる必要があるのか。</p> <p>立石の駅に、大きなビルを建て、そこに区庁舎が入って安全という考えより、防災拠点は学校を中心とすべきではないのか。</p>	<p>今回の都市マスタープランの改定は、勉強会での地域別の議論を先行させるボトムアップ方式で進めたもので、勉強会での意見を含め策定委員会に報告し、その中で、議論をしていたら、素案としてまとめたものです。災害に弱いなどの課題解決には、まちを更新していくことが必要であり、広い意味で「再開発」と言う文字を残したものであるが、まちづくりに当たっては、引き続き、地域の方々と議論をしていきたい。</p> <p>平成21年度に庁内検討委員会を設け検討し、防災性の脆弱化、狭あい化による区民サービスの低下などがあることから建て替えの方向で検討すべきではないかという報告書を出している。今年度は、学識経験者、区民の各代表、公募区民の方を入れた検討委員会を立ち上げ、検討を進めているもので、結論が出たものではありません。</p> <p>京成線の駅には、交通広場がなく、電車とバスの乗継など、交通結節点としての機能が十分に発揮されていない。大きさの議論はあると思いますが、交通広場を設けていく必要があると認識しています。</p> <p>区庁舎がどこで建て替えるかは決まったものではありません。学校は避難場所としても重要な施設であり、優先的に耐震補強等を進めてきています。また、防災拠点としての区役所の役割は大きいと考えています。</p>

葛飾区都市計画マスタープラン素案説明会意見概要等

別紙 2

開催場所	主な意見の概要	区の回答概要
ウイメンズパル	復興まちづくりの根底にあるのは、災害が起きてからまちづくりを進めればよいと考えているからではないのか。	策定委員会の会長を務めていただいている首都大学の中林教授は、震災を想定し、事前にその対策となる都市計画やまちづくりを進める事前復興が最も重要であると提唱しており、今回の改定に当たっても、そのことを基本姿勢として、取組を記述しています。

